

# 登園届(保護者記入)

社会福祉法人誠和会

やわらぎ保育園 園長 大島 智保子 様

クラス

児童名

生年月日 年 月 日

(病名) 該当疾患に☑をお願いします。

<input type="checkbox"/>	インフルエンザ
<input type="checkbox"/>	新型コロナウイルス
<input type="checkbox"/>	溶連菌感染症
<input type="checkbox"/>	アデノウイルス感染症
<input type="checkbox"/>	マイコプラズマ肺炎
<input type="checkbox"/>	手足口病およびヘルパンギーナ
<input type="checkbox"/>	伝染性紅斑(りんご病)
<input type="checkbox"/>	ウイルス性胃腸炎 (ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス等)
<input type="checkbox"/>	RSウイルス・ヒトメタニューモウイルス感染症
<input type="checkbox"/>	帯状疱疹
<input type="checkbox"/>	突発性発疹

<input type="checkbox"/>	伝染性軟属腫(水いぼ)
<input type="checkbox"/>	伝染性膿痂疹(とびひ)
<input type="checkbox"/>	アタマジラミ

その他の疾患

<input type="checkbox"/>	病名( )
--------------------------	-------

(医療機関名) \_\_\_\_\_ (令和 年 月 日受診)

において上記と診断されましたが、その後、集団生活に支障がない状態と判断されましたので、  
令和 年 月 日より登園いたします。

令和 年 月 日  
保護者氏名 印

※保護者の皆さまへ

保育所は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団での発症や流行をできるだけ防ぐことで、一人一人の子どもが一日快適に生活できるよう、上記の感染症については、裏面の表の『登園のめやす』を参考に、医師の診断に従い、登園届の記入及び提出をお願いします。

◎医師の診断を受け、保護者に『登園届』を記入していただく感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
インフルエンザ	症状のある期間(発症前 24 時間から発病後 3 日程度までが最も感染力が強い)	発症した後5日経過し、かつ解熱した後 3 日経過していること
新型コロナウイルス	発症後5日間までが最も感染力が強い	発症した後 5 日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過していること
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と、開始後 1 日間	抗菌薬内服後 24～48 時間が経過していること
アデノウイルス感染症	発熱・咽頭炎・結膜炎	主な症状が消失し全身状態が良いこと
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と、開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病およびヘルパンギーナ	手足口病…手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間  ヘルパンギーナ…急性期の数日間(便の中に 1 か月程度ウイルスを排出しているため注意が必要)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑(りんご病)	発疹出現前の 1 週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロウイルス・ロタウイルス・アデノウイルス等)	症状のある間と、症状消失後 1 週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排出しているため注意が必要)	嘔吐、下痢などの症状が治まり、普段の食事がとれること
RSウイルス・ヒトメタニューモウイルス	呼吸器症状がある間	呼吸器症状が軽快し、全身症状が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化していること。
突発性発疹	—	解熱し機嫌がよく全身症状が良いこと

※感染しやすい期間を明確に提示できない感染症については(一)としている

感染症名	感染経路	集団生活の対応
伝染性軟属腫ウイルス (水いぼ)	集団生活、水遊び、浴場等で皮膚と皮膚が接触することにより、周囲の子供に感染する可能性がある	水いぼを衣類、包帯、耐水性ばんそうこう等で覆い、他の子供への感染を防ぐ。プールの水では感染しないので、入っても構わない
伝染性膿痂疹(とびひ)	水疱やびらん、痂皮等の浸出液に原因菌が含まれており、患部を引っかいたり、かきむしったりすることで、湿疹や虫刺され部位等の小さな傷を介して感染する	病変部を外用薬で処置し、浸出液が染み出さないようにガーゼ等で覆えば、通園可能。 プールでの水遊びや水泳は治癒するまで不可
アタマジラミ	接触感染。家庭内や集団の場での直接感染、あるいはタオル、くし、帽子を介しての関節感染	出席停止の必要はなし。ただし出来るだけ早期に適切な治療をする必要がある